

第27回シンポジウム「高齢社会を共に生きる」の

実践報告要旨

「住民の自立・共生・参加による地域づくりー地域生活の相談からサービス提供まで、地域支援事業」

前川 義量（社会福祉法人円融会施設長）

兵庫県加西市の中心地であった北条地区北条は役場等の行政組織の移転による空洞化、高齢者世帯の増加とともに独居世帯も増えてきている。そこで縁あってこの地域で福祉人材養成施設を運営してきた社会福祉法人を中心に、地域福祉の土壌を築き福祉豊かなまちづくりを推進するため、互いに援助しあいながら解決するための自主的な新しい担い手づくりの組織を構築することを目的に事業を推進した。広範なネットワークとこれを支える自立・共生・参加型の組織運営と地域のニーズに対応する地域ケアシステムを構築するためには、まず地域の実情をしっかりと調査するとともに事業を認知してもらうことが不可欠であることから、地域行事に参画する一方、社会福祉法人の持つノウハウを活かし、この地域にはなかった半日単位のデイサービスを開設し、福祉相談対応のためのケアマネージャーを常勤させることとした。また、高齢者が集える場所として施設を地域住民に解放し、イベントや落語会など地域主催の行事を行い、高齢者のコミュニケーションの醸成を図った。

「空き店舗を活用した高齢者のたまり場、働く場ー高齢化が進む多摩ニュータウンにみんなで作るみんなの店ー」

相良 孝雄（NPO法人ワーカーズコープ東京三多摩山梨事業本部事務局長）

高齢化する多摩ニュータウンで、高齢者自らが主人公として「高齢者の働く場」「助け合いの拠点」づくりを目指し、平成22年10月から、地域住民の委員会を立ち上げ、地域の課題やニーズを協議し、「協同労働」による地域づくりの事業に取り組んだ。具体的には5階建てでエレベーターが無いという住居環境にある住民が直面している独居高齢者の増加、足腰等身体の衰えによる高齢者のひきこもりや食事のバランスの片寄り等の地域課題に対して、気軽に出かけられる店でもあり、高齢者でも働ける場所として助け合いの拠点「こみにてい込煮亭」を立ち上げた。さらに住み慣れた地域で高齢者が安心して生活できるように、住民同士の助け合いによる「生活総合支援事業」に取り組み始めた。